わだい

西永寺（五六の町）の阿弥陀如来像が県の文化財に……

市の文化財に指定されている西永寺（若槻教永住職＝五六の町）の、木造阿弥陀如来立像（あみだにょらい）がこのほど県の文化財として答申されました――もちろん、市内からは初めてのことです。

この立像は、高さ150㎝。平安時代後期に造られたものといわれ、製法や顔の表情、からだの肉づきの表現などから、その時代の特色がうかがわれます。

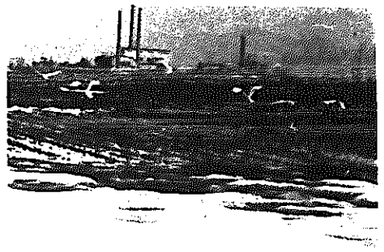
長い歳月がたっているにもかかわらず、いたみも少なく、昭和13年に手と足の一部を復元しただけで、その姿は現形をとどめています。

若槻さん

国宝の指定を受けようと、昭和十三年ころから申請しようという動きはあったみたいですが、実現しなかった。

昭和四十四年、国の文化財審議委員の石田茂作先生から「地方にはまれなもの……」のことばをいただき、昨年の二月に県に申請したわけです。

県からは、指定されたという通知はまだきていませんが、ホットした反面、これからが大変だナーという感です。



長旅まえのご散歩？ 白鳥飛来

冬の使者、白鳥が〝ふる里シベリヤ〟帰りを前に、ひょっこり和泉工場団地前に飛来。

三十羽からなる大視察団？さては、北国へのみやげ話にでもするために来たのでは……。

でも、訪問のお目あては長旅まえの自然食あさりのようでした。多くの人の豊かな愛情に守られて海を渡る白鳥、ぜひ来年も――。

夢はずむ新一年生

ぼく一年生だよ！と胸を張って見せる子ら……母の手にひかれながらくぐる校門。二月二十五日、白根小で行われた〝一日入学〟の一コマです。

今年、市内の小学校に入学する児童は、昨年より十七人多い四百六十人。そのうち男子が二百五十三人、女子二百七人です。

夢いっぱいの子どもたち、りっぱに育てと願いもひとしお。

白根高校 二百二十五人が合格

三月十八日は、白根高校の入学試験の合格発表。家政科は四十五人の定員ちょうど、普通科では百八十人の定員に対し、百八十九人の受験者数。

激戦ではなかったものの、どの顔も心配そうな表情で掲示板をチラリ。うれしさのあまり泣きだす女子生徒も――。

合格者の約六割が、市内の生徒です。

うまい米量産推進会 多収穫農家を表彰

三月二日、教育センターで〝五十一年度うまい米量産推進大会〟が行われ、多収穫農家などが表彰されました。（二位二席まで）■個人 ①小柳重男（上塩俵）②関根広喜（丸潟）、大場睦郎（中山）■団体 ①丸潟農事研究会②白根農研組合、松橋農家組合■銘柄米 ①武田晴夫（蔵主）②小湊宏（道潟）、五十嵐健治（新村）。

おめでとう 体育功労者

市体育協会（八木宏二会長）では〝スポーツ功労者〟などを表彰しました。

体育功労として十五人が、優秀競技者に大矢栄太郎さん（二〇〝根岸）ら三人、優秀競技団体として県大会に優勝した白根第一中学校の野球部、柔道部がそれぞれ表彰されました。

今後もいっそうのご活躍を！

■ 交通事故相談 ／ 4月13日（水）午前10時から3時まで、市役所で開設します。お気軽にどうぞ。

グループ登場

将棋で心のふれ合い

瀬会友庄棋

今、将棋が静かなブームを呼んでいるといわれていますが、この〝庄瀬棋友会〟も、やはり将棋愛好者でつくっているグループです。

会の発足は、今年の二月からと、まだ日は浅いですが、好きな人たちの集まりだけに、盤が足りないくらいに盛況とか。

会員のほとんどは、地元の人最近は、話を聞いて新飯田や月潟、田上などからも参加したいという問い合わせも――。

会場を提供し、老人クラブの県大会でも優勝経験を持つ高橋義次郎さんは「会をつくって本当によかったなによりも多くの人たちと交流ができることが一番うれしい」という。

時にはついつい対局に熱中し、夜の十時、十一時になることもあるそう。

それでも、どの顔も楽しくてしょうがないといった表情で、雰囲気はなごやか――「将棋好きの人は気軽にどうぞ」と呼びかけています。

同会の集まりは、毎週日曜日の午後六時三十分から、高橋さん宅（庄瀬下町）で、行っています。

【会員の声】 真保栄一さん

いろいろな戦法を持つ人と対局できるので楽しい。

将棋を始めたきっかけは、根性を確かめたかったことと、先を読むということは商売にもプラスになると思ったから。

ふるさとおかし話

① ぼかん婆々（ばば）（実話）

今より、六十年前、味方村のある家に年寄りが死にました。

やがて、葬式もすみ、親類の者もみな帰り、内（家）もだんだんさびしくなります。

しかるにある晩、その死んだばばが、白い着物で寝間の窓から首をだして

「こらこら、かかや。おれの着物をみんなだしてくりゃれ、それがないと、おれはいぎ所へ行かれないから」といい、毎晩のように来ます。あまり気みが悪いので、村の人に話しますと

「それは外の者に違いない。正体を見とどけてやろう」と、ある晩、みんなねた時分に、かげにかくれて待っていました。するとまたやって来ました。

「よしよし、何でもやるから」と、ばばの手を取ろうとしましたら、ばばはたまげて首をもぐして逃げます。

「そらっ」と、おっかければだんだん墓場の方へ、ふわふわと行きます。

「そら、逃がしてはならん」と、刃物を手にして、おっかけますと、ばばはたまらず、ある墓の後へかくれて

「ボカンと消えてくれ消えてくれ」と、いっていました。

そこでおさいてみたら、評判の隣りのよく深いばばでありました。

それからあだ名して、ぼかんばばと、ますます名がひびきました。

■ こいのぼりのポールを立てるときは、電線に十分注意してください。